

令和7年度 第4回 葵が丘小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年2月10日（火） 15時00分から16時30分まで
- 2 開催場所 葵が丘小学校 南校舎1階 多目的室
- 3 出席委員 小栗 則利、桐村 哲雄、見野 泰弘、若松 由希野、田村 都弥
- 4 欠席委員 伊藤 謙吾、柳澤 照美
- 5 教務コーディネーター 西原 真知
- 6 学 校 小山 貴広（校長）、佐藤 明世（教頭）、芹澤 純子（CS担当職員）、村上 朝香（CSディレクター）
- 7 傍 聴 者 齋藤 美代子
- 8 会議録の作成者 CSディレクター 村上 朝香
- 9 議長の選出

小栗会長より、第1回の会議上で年間を通して見野委員が務めることが提案され、全員異議なくこれを承認した為、予定通り見野委員が務めることになった。

10 協議事項

(1) 学校関係者評価について

- ・ 児童、保護者、職員等の学校評価結果を受けて
- ・ 次年度運営の基本方針について

(2) 学校運営協議会の自己評価について

(3) 夢育やらまいかCS加算分の報告について

11 会議記録

司会の佐藤教頭から、委員総数7人のうち5人の出席があり、過半数を超えているため、会議が成立している旨の報告があった。

○ 熟議

(1) 学校評価について

- 議長の指示により、教務主任から別紙資料に基づき、学校中間評価及び令和7年度全国学力・学習状況調査についての説明があり、委員から以下の発言があった。

- ・ 子供目線と親目線、先生目線で、それぞれ多少評価が異なることは当然である。特別問題なく取り組めているように思う。（小栗会長）

- ・ 【体】の部の持久走記録会について、順位を競うものなのか。昔のような校外を走るマラソン大会は、現在では交通事情もあり実施は困難だと思うが、どのように行っているのか。（小栗会長）

- 20分休みに皆で運動場を走ったり、体育の授業内でタイムを測り、記録を付けるといったもので、現在は順位を競う形では実施していない。実施法については検討していかなければならないと考えている。来年度に向けて話し合いを進めている。（芹澤先生）

- 記録会の時期になると、20分休みに多くの生徒が走っている姿を目にする。20分休みに走った距離は、子供たちが自身で把握できるようにしているのか。モチベーション向上の工夫はあるのか。（見野委員）

- あおいチャレンジというカードで、走行距離を確認することができる。距離数に応じてカードの色が変わり、子供たちのやる気につながっている。来年度に向

けて、体育部では、年間通して体力アップを図りたいと話し合いを進めている。
(芹澤先生)

→ 各学年で年間目標距離を設定し、目標を達成できた児童を年度末に表彰するなどしてはどうか。(小栗会長)

・ 【知】のICT活用について、前回の協議会でも議題に上がったが、家庭に持ち帰り、授業の復習に活用できているのか。また、セキュリティの問題はどうか。

(桐村副会長)

→ 毎日ではないが、自宅に持ち帰り、担任から配信された課題に取り組み始めたところである。例えば、家庭科の課題で、自宅で調理したものを画像で担任に送るなど、活用の幅が広がりつつある。継続していくことが、今後の課題である。また、タブレット活用のモラルに関しても考えていかなければならない。来年度は情報モラルについての授業も取り入れていこうと教員間で話し合っている。

(芹澤先生)

→ 自宅の個人用タブレットは使用できないのか。学校支給のもので限定なのか。

(見野委員)

→ 学校の教材は、セキュリティ対策もあり学校支給のタブレットのみログインが可能なため、個人用は活用できない。(小山校長)

→ 今後は、宿題も全てタブレットで行なうようになるのか。(見野委員)

→ 宿題の内容にもよる。例えば、書き取りの学習には、従来通りノートを使用するが、書き順の学習はタブレットで行うなど、従来のやり方とICTと両方を活用していく。(芹澤先生)

・ 挨拶についてだが、幼稚園では、年長の子供たちに、挨拶はコミュニケーションのひとつであると話をしている。コミュニケーションで一番辛いことは、無視されることである。無視することの反対の行動は、挨拶である。だから挨拶は大事だと伝えている。このような話をして、子供たちを小学校に送り出している。自分の経験から、心を込めた挨拶が大切だと伝えるだけでは、子供たちに理解してもらえないと感じている。いろいろな場面で、繰り返し伝え続けなければならないと思うが、小学校では挨拶の大切さをどのように伝えているのか。(田村委員)

→ 自分にできる挨拶をしようと伝えている。挨拶するのが恥ずかしい子もいれば、大きな声を出せない子もいる。お辞儀だけでも良い、手を振ってくれるだけでも良い、自分に合った挨拶で良いから、してみようと伝えている。また挨拶の意味についてだが、以前、挨拶の講和で使用した言葉を首掛けメッセージにして、毎朝正門に立ち、子供たちに挨拶の大切さを伝え続けている。3学期に入り、挨拶がとても良くなったので、首掛けメッセージにして伝えた。とにかく目に見えるようにして、毎日子供たちに発信し続けている。しかしながら、なかなか定着しないのが現状ではあるが、「挨拶しなさい」ではなく、挨拶をするとお互いどんな気持ちになるだろう、なぜ大切なのだろうと考えさせ、自ら挨拶しようという気持ちに切り替えられるよう、挨拶に限らず、自分を客観的にとらえ行動できるよう、伝え続けていきたい。(小山校長)

→ 昔は、知り合いでなくても挨拶をした。現代は、大人でも挨拶しない場面に遭遇する。返事をしないことも多い。親がしないから子供もしない。家庭環境も影響しているのではないか。(小栗会長)

- 家庭の中の様子は、学校では把握できないこともある。年度初めに、校長からどんな挨拶でも良いと話があり、日々メッセージを発信していても、おおもとの子供たちの意識が変わらないと、なかなか定着しない。(佐藤教頭)
- 防犯目的で知らない人と話さないという教育方針もあるため、挨拶が定着しないのではないかと。(田村委員)
- 現代は家族で出かける機会が減っている。それも影響があるのではないかと。(斎藤さん)

- 議長の指示により、校長から別紙資料に基づき、次年度運営の基本方針についての説明があり、委員から以下の発言があった。
 - ・ 今年度のグランドデザインと比較すると、シンプルになり大変見やすい。(若松委員)
 - ・ 『ともに歩む大人の姿』という表示が良い。子供の健やかな成長は、家庭や地域の関わりがあってこそだと思うので、大人がどうあるべきなのかというメッセージ性もあり、大変良いと思う。(西原コーディネーター)
 - ・ コミュニティ・スクールの欄に『サポーター』という言葉を入れてほしい。また『子供から大人への働きかけ』に関して、来年度は子供たちとコーディネーターと一緒に考え、話し合う機会を増やしていったらと思う。(見野委員)
 - ・ 大変に良い。キーワードがしっかりと明示されており、一目見て内容を理解でき、何を目標にしているのかしっかりと伝わる。『Well Being』という言葉が良い。(桐村副会長)
 - ・ 学校支援コーディネーターを中心に学校運営協議会において、子供たちを見守る体制があり非常に素晴らしいと感じた。(斎藤さん)
 - ・ 今年度に比べると大変見やすい。『子供も大人も』という表示が良い。大人も一緒に教育に関わり、関心を持って取り組むことが子供の健やかな成長につながると思うので、グランドデザインの中にそのようなメッセージ性もあり、非常に効果的だと思う。(小栗会長)

(2) 学校運営協議会の自己評価について

議長の指示により、会長と教頭から別紙資料に基づき、学校運営協議会の自己評価について説明があった。

(3) 夢育やらまいかCS加算分の報告について

議長の指示により、教頭から夢育やらまいかCS加算分の報告について説明があった。

協議の結果、全員異議なくこれに賛同した。

◇ その他報告事項等

- ・ 学校支援コーディネーターから、活動の報告があった。

◇ その他連絡事項等

- ・ 司会から、来年度の新委員と学校運営協議会の開催日時について説明があった。